

令和6年度 第2回釜石市立平田公民館運営審議会開催結果

- 1 日 時 令和 7年2月26日（水）午後2時～午後3時10分
- 2 場 所 平田集会所 1階 小会議室
- 3 出席委員 5名
中川崇司委員長、佐々木淳子副委員長、
福田博委員、高澤友子委員、久保修一委員
- 4 欠席委員 佐守直人委員、小松美香委員
- 5 事務局等 4名
まちづくり課：佐藤貴之課長、浦城太郎主任
平田公民館：樋岡悦子館長、村田奈々主査
- 6 傍聴者 なし
- 7 結 果
 - ・樋岡館長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。
 - ・令和6年度釜石市立平田公民館事業報告について、樋岡館長が資料に基づき説明し、質疑応答後提案のとおり了承された。
 - ・令和7年度釜石市立平田公民館事業計画概要について、樋岡館長が資料に基づき説明し、質疑応答後提案のとおり了承された。
 - ・佐藤貴之まちづくり課長より本のまちプロジェクトについてお知らせした。

○委員の主な発言等

<令和6年度釜石市立平田公民館事業報告について>

〔質 問〕：自主グループの参加は、人数的に増えているのか？

〔事務局〕：自主グループの団体数が増えたので増えている。開催日数が増えた団体もある。開催日を隔週で開催していた団体が、毎週開催するようになり人数も毎週同じ位の参加者来るため、開催回数や参加人数は増えている傾向である。

〔質 問〕：子供達の「親子で遊ぼう！！」とか保健師の相談は、前半少なくて後半増えた理由は周知の問題か？

〔事務局〕：「おやこのアソビバ」も定期的に来る方々をみると、公務員で育児休暇を取っている方々が多く、転勤して来てから分かってくるパターンがある。今年は特に言われたのは、「異動時期と重なった。」と言われる。この事業に来ての方方はリピーターが多い。異動が入ると、参加者が少なくなるという傾向がある。周知は他事業と変わらない。

〔質 問〕：最新のつながるカフェの参加者が5人。伸び悩み状態だが、お世話をしてくださる皆さんには感謝をしている。人口が少ないのもあるが、新しい人の参加が望めないようだが参加者の動向はいかがか。

〔事務局〕：どうしてもつながるカフェとかもリピーターさんが多くて、年齢を重ね体調的にデイサービスを利用する方が増え参加者が減っている。参加年齢層が70～80代で、80代が多い。65歳だと働き盛りの方が多い。日中の午前中開催に合致しないところもあると思われる。若い方は、逆にサポーターの方で入ってもらえればと良いなと考えているが課題が多い。場所を集約すると来れない人が出るので、地域の方に近づいて行った方が良いと思い、今やっているところだ。

〔質 問〕：体操教室 in 平田こども園が中止になっているが、どのような理由か？

〔事務局〕：体操教室 in 平田こどもは、釜石市体育協会へ委託して行っている事業であるが、体育協会の担当先生のご都合で今回開催できなかった。

<令和7年度釜石市立平田公民館事業計画概要について>

〔意 見〕：継続事業だけだが、役所全体的にも言えるが、人が減っている中で業務量は減らない状況で大変だと思う。課長さんは分かっていると思うが、一つよろしく願います。

<その他>

〔事務局〕：今日は遅れたのは、お願いというわけではないが、市長室で来年度『本のまちプロジェクト』について話してきた。釜石市民は意外と本を読んでいる人が多い。中学生、高校生は本を読む機会が減ってくるが、小学生や19歳以上の方は、実は本を読んでいるがなかなか知られていない。こういうのをプロジェクト化して『釜石本のまちプロジェクト』と仮称であるが、何かをやっていききたい。その一つが、図書館の本は、パソコン、ケータイでどんな本があるか見ることができるし予約することができる。ただ、例えば遠い人達が図書館まで行けるか？となると、なかなか行けない。申込をして応援センターで受取と返却っていうのをできるようにしたい。文書送達の車は毎日周っている。そういうのを活用してもらい、図書館の活動の場を広げて、もっと読みたい人がいるが借りる環境がないのを変えていきたい。平田も小さい図書コーナーがある。他の公民館もそうだが充実していない。借りたい本があっても本がなかなかない。整備されていない。そこを例えば歴史の本や子ども向けの本を分けて置きたい。まず、本を集めたいと思う。全部の公民館運営審議会で話したところ、「うちにもあるが、子どもに読ませた本があるが、なかなか捨てられなくて置いたままにしている。」「普通の漫画や雑誌だと捨てることができるが、子どものために買った本もあったりして……。そういうものの寄付なら全然いい。それが次の世代に使ってもらえるなら、どんどん協力したい。」という話がでた。今後公民館だよりも載せたい。さすがに破けてページがなくなった、壊れている本は受付できないが、そういうのをリユース、リサイクルして次の人に使ってもらえればと思っている。